

(参考)

## 奈良県立医科大学 DMAT チーム活動概要

奈良県立医科大学では、吉本清巳医師をリーダーとした医師 2 人・看護師 2 人・調整員 1 人の計 5 人の災害派遣医療チーム (DMAT) を編成し、16 日朝 9 時に奈良医大を出発させた。熊本県には同日 21 時 40 分に到着、17 日朝 6 時半から地震警報が鳴り続けている熊本赤十字病院で活動を開始した。

奈良医大 DMAT チームは、約 17000 人の避難者がいる八代市に入り、17 日は 16 の避難所を巡回し避難者の健康状態の把握や問題点を探した。約 160 人が避難している金剛小学校では、夜間に妊婦が体調を崩し自分たちで病院に運んでいたことが分かった。問題を持ち帰り、DMAT による避難所の毎日の巡回を行うべきであると提言した。

次に大きな地震が起これば自宅が倒壊し命の危険もありうるため避難所で過ごすことを余儀なくされている被災者の方に、せめて医療者である自分たちが近くにいるという安心感を与えることが出来たらと、同日から八代市内に宿泊することとした。

チームメンバーの一人は、「自分たちがここで活動できているのは、大学に残り後方支援してくれている仲間たちや県調整本部のおかげです。みんなで一丸となって被災者のために頑張りたい。」と意気込みを語った。